

<p>〔科目名〕</p> <p style="text-align: center;">経 営 史</p>	<p>〔単位数〕</p> <p style="text-align: center;">2 単位</p>	<p>〔科目区分〕</p> <p style="text-align: center;">専門科目 展開科目</p>																					
<p>〔担当者〕</p> <p style="text-align: center;">平野 恭平</p>	<p>〔オフィス・アワー〕</p> <p>時間： 休憩時間および講義終了後 場所： 講義室</p>	<p>〔授業の方法〕</p> <p style="text-align: center;">講義</p>																					
<p>〔科目の概要〕</p> <p>経済活動の重要な担い手である企業の歴史を振り返ると、いつの時代にも経営者・管理者・技術者たちによる様々な挑戦と工夫が行われてきたことがわかります。経営史の講義では、そのような先人たちの取り組みを学ぶことによって、経済・経営発展の歴史を理解し、その現代的な意義を考えます。経営・管理・技術にまつわる日本経営史の代表的なトピックスを学びます。</p>																							
<p>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</p> <p>現在の経営現象や未来の経営のあり方を考える時でも、その成立過程や発展段階など、歴史的視点から捉えることは大事です。「経路依存性」という言葉があるように、過去が現在や未来を規定することもあります。歴史を学ぶことは、過去からの連続性をもって現在の経営現象や未来の経営を考える力に結びつきます。</p>																							
<p>〔科目の到達目標〕</p> <p>日本経営史の基本的な知識を身につけて、歴史的視点から経営現象を理解・考察できるようになることを目標にします。日本経営史の代表的なトピックスを学びながら、いつ何が起きたのかという「結果の暗記」ではなく、何故どのようにして起きたのかという「過程の思考」を身につけることを目指します。</p>																							
<p>〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○	○			○		
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
○	○			○																			
<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>特にない。</p>																							
<p>〔教科書〕</p> <p>特にない。</p>																							
<p>〔指定図書〕</p> <p>宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編『1からの経営史』碩学舎、2014年。</p>																							
<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣、2004年。 ・佐々木聡編『グラフィック経営史』新世社、2022年。 ・宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史』第3版、有斐閣、2023年。 																							
<p>〔前提科目〕</p> <p>特にない。</p>																							
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>期末試験(60%)、課題レポート(30%)、小テスト・アンケート(10%)に基づいて評価します。日本経営史の代表的なトピックスを正しく理解しているか、経営学の知識を踏まえて理解しているか、現在と過去を結びつけて理解しているかを成績評価の基準とします。</p>																							
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>歴史というと暗記科目のイメージが強いかもしれませんが、覚えることよりも、考えることを大事にして講義に臨んでもらえると、経営史の理解は深くなると思います。高校時代に日本史を取らなかった場合でも、理解できるように説明するつ</p>																							

もりです。	
【実務経歴】	
なし。	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：なぜ歴史を学ぶのか？</p> <p>内容：過去を学ぶことが現在を理解する上で重要な意味をもつことを説明します。それを踏まえて、経営史という学問分野の特徴を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：該当なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：江戸時代の商家経営</p> <p>内容：江戸時代の商家の経営・管理について説明します。また、それらが近代以降にどのように受け継がれたのかも解説します。</p> <p>教科書・指定図書：指定図書第1章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：明治の企業家たち</p> <p>内容：明治期の企業者活動について、5つのタイプに基づいて説明します。旺盛な企業者活動がみられた背景についても解説します。</p> <p>教科書・指定図書：指定図書第2章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)：近代産業の技術形成</p> <p>内容：綿紡績業を中心として海外からの技術導入について説明します。技術導入に頼りながらも、自主的に技術を形成していくことの重要性を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：指定図書第3章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)：近代産業の経営管理</p> <p>内容：綿紡績業を中心として、近代工場での経営管理について説明します。科学的管理法や労働者を重視した労務管理の有効性を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：指定図書第3章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)：チャンドラー・モデル</p> <p>内容：19世紀末から20世紀初頭にかけてのアメリカでの大企業の成立を解き明かしたチャンドラー・モデルについて説明します。市場と組織の観点から解説します。</p> <p>教科書・指定図書：該当なし</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)：財閥の戦略と組織</p> <p>内容：日本のビッグビジネスであった財閥の戦略と組織について、三菱や三井を取り上げて説明します。繁栄した財閥と没落した財閥の違いを経営面から解説します。</p> <p>教科書・指定図書：指定図書第4章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)：サラリーマンの誕生</p> <p>内容：新卒採用と長期雇用が補完し合う雇用システムの形成について、企業と学校の関係性から説明します。それを踏まえて、現在との連続性を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：指定図書第7章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)：消費を生み出すマーケティング</p> <p>内容：西洋から流入してきた商品が日本で受け入れられていく過程をマーケティング面から説明します。消費者に影響を及ぼした宣伝広告について解説します。</p> <p>教科書・指定図書：指定図書第8章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)：重化学工業化と新興財閥</p> <p>内容：両大戦間期の重化学工業化を担った新興コンツェルンについて、代表的な企業家を中心に説</p>

	<p>明します。戦時経済下の企業活動についても、可能な限り解説します。</p> <p>教科書・指定図書： 指定図書第 5 章</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 企業集団とメインバンク・システム</p> <p>内容： 戦前の財閥から戦後の企業集団への移り変わりを説明します。それとともに、メインバンクが果たしてきた役割についても解説します。</p> <p>教科書・指定図書： 指定図書第 9 章, 第 11 章</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 日本的生産システムの形成</p> <p>内容： フォードシステムとは異なる形で形成された日本の生産システムについて、戦前から戦時期を経て戦後に至る流れで説明します。日本的という言葉のもつ意味も解説します。</p> <p>教科書・指定図書： 指定図書第 12 章</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 大衆消費社会と家電産業</p> <p>内容： 高度経済成長を支えた家電産業について、家電メーカーの経営戦略を中心に説明します。成功した企業だけではなく、挫折した企業にも目を向けて解説します。</p> <p>教科書・指定図書： 指定図書第 10 章</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 大衆消費社会と流通革命</p> <p>内容： 百貨店・スーパー・コンビニという戦後の小売業の担い手について説明します。消費者や取引制度の変化を交えながら解説します。</p> <p>教科書・指定図書： 指定図書第 13 章</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 日本的経営の到達点</p> <p>内容： 高度経済成長を経て、海外から賞賛された日本的経営の到達点と限界について説明します。輝きを失った現代の日本企業の経営を歴史的視点から理解できるように解説します。</p> <p>教科書・指定図書： 指定図書第 15 章</p>
試験	<p>期末試験として 60 分で筆記試験を実施する。</p>